

第30回／2010年

児童図書館員養成専門講座募集要項

●目的

児童奉仕の現場で中心的役割を果たし、指導者・助言者として活躍できる人を養成する。

●期 日

前期 2010年6月28日(月)～7月 3日(土) [6日間]

後期 2010年9月27日(月)～10月6日(水) [9日間] 10月3日(日)は休み

●会 場：主として日本図書館協会

●受講資格

司書有資格者であること。かつ、次の条件をみたす人。

公共図書館職員として5年以上の経験を持ち、児童奉仕担当を2年以上経験していること。

もしくは、国立国会図書館、学校図書館等に所属し、上記の条件に準ずる経験を有すること。

●募集人員 20名程度

●応募方法

(1) 本人の略歴(氏名、フリガナ、年齢、勤務先(連絡先)所在地、現在の雇用形態及び職名、司書資格取得方法および年月日、図書館員としての履歴、そのうち通算児童奉仕担当履歴も年数が分かるように明記すること)

(2) 課題①「児童図書館員養成専門講座受講を希望する理由」について40字×30行から40行にまとめること。

課題②以下に掲げる課題図書を読み、自分の体験と照らし合わせてどのように考えるのか感想文を、40字×36行から40行にまとめること。

『児童図書館への道』ハリエット G. ロング著、友野玲子訳、日本図書館協会

(字数不足あるいは字数超過は原則として審査対象とならないので、注意すること)

上記(1)(2)を4月22日(当日必着)までに、日本図書館協会児童図書館員養成専門講座係宛て送ること(書類はいずれもA4版縦置き横書き。メールの場合は添付ファイルで shiryoshitsu@jla.or.jp 宛て)

●受講者決定通知：5月下旬 本人宛て通知

受講者の決定は、児童青少年委員会の書類審査による。受講決定後、必読図書と各科目の課題を通知する。

●参加費：日本図書館協会会員 4万円、会員外 5万5千円

●修了証：全講座を受講した者に修了証を発行

●主催：(社)日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14(電話 代03-3523-0811 e-mail:shiryoshitsu@jla.or.jp)

●後援：全国公共図書館協議会 (社)全国学校図書館協議会

◆第30回(2010年)児童図書館員養成専門講座カリキュラム◆

■前期

		午 前(9:30~12:30)	午 後(1:30~5:00)		
6月28日	月		開講式	坂部 豪	
29日	火	児童奉仕の運営・年間計画			川上博幸
30日	水	乳幼児サービス	島本まり子	障害のある子どもたちへのサービス 山内 薫	
7月1日	木	子どもの文学の基本としての昔話		松岡享子 おはなしの実演	
2日	金	図書館の魅せ方		押樋良樹 ブックトークの実演	
3日	土	図書館サービスと著作権	安発義彦	児童図書(自然の本)の編集・出版 飯野寿雄	

■後期

9月27日	月	児童資料(1) 外国の児童文学			依田和子
28日	火	児童資料(2) 絵本			矢野 有
29日	水	児童奉仕の実際(1) ブックトーク			杉浦弘美
30日	木	児童奉仕の実際(2) ストーリーテリング			内藤直子
10月1日	金	児童資料(3) 日本の児童文学			宮川健郎
2日	土	児童奉仕の実際(3) 選書・蔵書構成			島 弘
4日	月	児童資料(4) 科学の本と科学あそび			塚原 博
5日	火	児童奉仕の実際(4) レファレンス			東京都立多摩図書館
6日	水	利用者の立場から児童図書館員に望むこと	増山正子	研修の自己評価とまとめ	坂部 豪

11:00

第29回児童図書館員養成講座受講生の感想から

- ・課題の多さと図書館の日常業務とのやりくりに苦しみましたが、課題を通して得られた知識や講師の方々の熱意にふれ、充実した日々でした。そして、相談できる仲間ができたことが何よりの宝ものです。
- ・勉強不足で打ちのめされることばかりでしたが、それぞれの講座でポイントが分かり、仕事の上で支えになっています。課題をこなし、講義を受け、アンケートを書くことで何度も講座を思い返すことになり、講座を受けたことは、自分にとって有益であったと思います。
- ・この講座を受講できて、夢が一つ叶いました。しかし、それは新たなスタートでもあることを実感しました。講師の方々は長年積み重ねた知識を惜しげもなく私たちに伝えてくださいました。今の自分が未熟であることを身にしみて感じた分、学ばねばという意欲を伝えていかなければと思いました。何より、参加することで児童図書館員としてものごとを考えるようになったことは大収穫でした。それは、自分の中に核となるもので、自分は受け継ぎ引き継ぐものであることを自覚することでした。また、仲間がいるということがこんなに心強いこととは思いませんでした。この縁は大切にしたいと思います。